

序

21世紀に向けて社会環境がいつそう高度化、多様化を見せつつあります。このため、学習指導が知識、技能の単なる習得や伝達のレベルでは、これからの時代への適応はととも難しい。いま、子どもたちにかなる能力を、どのように体得させていくか、についての積極的な理念と方策の探求はきわめて重要な課題といえましょう。

今日の社会の現状から未来の生活を予測するとき、子どもたちの個性が尊重され、主体性が重視されるなかで、自ら問題を掘り起こして、意欲的に学ぶ力を体得させていかななくてはなりません。言い換えれば、私たちにとって、子どもたちが立ち向かう課題に対して、強い意志をもって自分の可能性に挑戦し、自分なりのものの見方、考え方、感じ方をしっかりと確立していける力を育てていくことであると考えます。

本校では、こうした立場から、めざす子ども像を「単なる知識や技能の習得で満足せず、自己の感じ方や考え方を生かし、自らの手で育ていける子ども」と捉えております。そして、この子ども像に迫っていくことを、私たちは「自己を拓いていく過程」と捉え、「自己を拓く」を研究主題として掲げて取り組んでまいりました。そして「自己を拓く」ためには、「生きて働く力」をどのように考えればよいか、また、この「生きて働く力」を体得するために「主体者としてかかわる学習」はどのようなものでなければならぬかを探ってきました。本年は「自己を拓く」の第二年次の取り組みの結果であります。第一年次の成果を踏まえながら、第一年次で残された課題や問題点をより明らかにするよう努めました。ささやかではありますが、ご高覧の上、ご批判とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本研究の遂行にあたり、ご指導ご助言を賜りました諸先生方に厚くお礼を申し上げますと共に、旧研究同人並びに本校同人のご尽力に深く感謝いたします。

平成3年5月29日

金沢大学教育学部附属小学校

校長 矢部 俊 政